研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-153		20-058	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門　三浦克之

題名（原題／訳）

Socio-economic inequalities in the association between alcohol use disorder and depressive disorder among Thai adults: a population-based study
タイの成人におけるアルコール使用障害と抑うつ障害の関係、および社会経済的不平等

執筆者

Assanangkornchai S, Nontarak J, Aekplakorn W, Chariyalertsak S, Kessomboon P, Taneepanichskul S.

掲載誌

BMC Psychiatry. 2020 Nov 23;20(1):553. doi: 10.1186/s12888-020-02958-6.

キーワード	PMID
アルコール使用障害、抑うつ障害、社会経済的状態、裕福度、国民調査	33228577

要　旨

目的：抑うつ障害とアルコール使用障害（AUD）は関連しており、これらは社会的状況との関係が深いことが明らかとなっている。本研究では、様々な社会経済的集団における主要な抑うつ症状（MDE）と AUD との関連を調査することを目的とした。

方法：20 歳以上の一般成人のランダムサンプル 13,177 名を対象とした 2014 年以降のタイ国民健康調査のデータを解析した。AUD 同定テストの回答から、対象者を飲酒の問題なし（0-7 点）、危険な飲酒（8-15 点）、有害なアルコール依存（16-40 点）へ分類した。MDE は精神疾患の診断・統計マニュアル（DSM-IV）に基づいた質問にて評価した。様々な社会経済的集団について、多項ロジスティック回帰分析を用い、予測因子を MDE、アウトカムを AUD とした調整オッズ比（AOR）および 95%信頼区間（CI）を算出した。

結果：MDE、危険な飲酒、有害なアルコール依存を有する割合は 2.5%、10.3%、1.9%であった。MDE と AUD の関連は経済状況、教育レベル、在住地域により異なっていた。MDE と有害なアルコール依存との関連は経済状況が最も高い場合(第 3 三分位)（AOR=8.68）と最も低い場合（第 1 三分位）（AOR=7.14）で強く、経済状況が中程度の場合（第 2 三分位）（AOR=1.78）には関連が認められなかった。教育は MDE と有害なアルコール依存の関連に最も強く影響する因子であった（中等教育以上：AOR=16.0、小学校教育まで：AOR=1.44）。MDE と有害なアルコール依存との関連は農村部（AOR=4.73）に比べ都市部（AOR=8.50）で強かった。

結論：タイの一般成人において、飲酒と主要な抑うつ症状の関係は社会経済的因子によって異なっていた。